

アーカイブズ ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第4号

1997年2月20日 発行



特集：資料の保存

特集 資料の保存

開館から一年余が過ぎ、琉球政府文書をはじめとする行政文書や、個人・団体寄贈の図書、私文書など、たくさん貴重な資料がこれまでに沖縄県公文書館へ寄せられました。しかしほとんどの資料は素材や形態、保管されていた場所や年数によってすでに損傷を受け、様々な姿を呈して当館に入ってきます。

これらの資料を適切な保存環境のもと、未来永劫守り続けていくのが公文書館の責務です。今号では「資料の保存」と題し、当館が行っている保存業務についてご紹介いたします。

資料の劣化原因と保存

琉球政府文書のように戦後作成された資料のほとんどは酸性紙なので、酸化による黄ばみ、亀裂、紙端の崩壊などが生じており、またホッチキス等の金具による綴じや、セロテープや化学糊による補修が原因で、錆やシミ等が頻繁にみられます。戦前文書や古文書は比較的、素材による劣化は少ないのですが、逆に虫食いや水シミ等が多々あります。

一般に紙資料の劣化原因には自然発生的なもの人為的ものがあります。前者は、高温多湿で光や汚染物質が存在する環境に長く放置すると、紙の繊維が伸縮を繰り返す、ついには分解や変



色を起こし、はたまたそのような環境が大好きな虫やカビの餌食になってしまう場合です。年中温暖多湿な沖縄にあつては、特に注意が必要です。後者は、主に人の扱いによるもので、本を落としたり、破つたりといったことのほか、飲食しながら資料をみるなかつつ、資料に食べカスをこぼしたり、唾をつけてページをめくったりする、等のケースです。よくありがちなことばかりですが、紙にとっては大変負担がかかる行為です。このように資料の保存状態は様々ですから、保存処置もそれぞれの資料に見合った方法を選択しなければなりません。

そこで当館では資料の劣化予防としてまず第一に保存環境を整え、同時に資料の提供方法も工夫しています。



書庫管理

資料を適切な条件で保存するため、書庫内の温度は20℃から21℃、湿度は60%前後に保たれています。(フィルム・テープ保管庫-左-は17℃、40%)。また書庫内の害虫発生を防ぐため、定期清掃と書庫燻蒸を実施しています。



資料の受け入れ

受け入れ時に仮目録をとった後、燻蒸し、資料に付着した害虫菌を除去します。



複写サービス

原資料の複写はマイクロフィルムの活用をすすめ、マイクロフィルム化されていない資料については、真上から撮影可能な複写機を使うことにより、傷みを防ぎます。



資料の閲覧

一点しかない原資料の閲覧には、利用者に手袋の着用と丁寧な取り扱いをお願いします。

補修と代替資料の作成

先述のように、劣化を極力防いでも、なかには損傷が著しく、取り扱いが困難な資料もあります。そうした場合には劣化箇所を補修したり、代替資料(複製)を作成するなどの処置を施します。

○補修

処置前には必ず資料の保存状態を記録します。その後で資料の汚れをとり、金具等、資料に負荷を与えるものを除去し、しわ伸ばしをします。紙質や素材を調べ、これらの処置内容を記録して補修を始めます。補修方法にはいろいろありますが、例えば虫食い資料であれば*1裏打ちや*2リーフキヤスティング法による補修を、本や綴じてある資料の落丁・破損であれば再製本を施します。この他酸性紙文書の劣化をくい止めるための「脱酸技術」を導入することも現在検討中です。

*1 日本の伝統的な補修技法で、資料の裏面に

別の補修紙を貼り合わせる方法。

*2 リーフキヤスティングマシンを用いて紙繊維を劣化資料の欠損部に埋め込む方法。



補修前の資料

○複製の作成

資料を利用しながら保存するために、複製を作成することがあります。コピーや写真撮影、代替資料として最も信頼性の高いマイクロ撮影などです。



撮影したマイクロフィルムの検査



補修例：裏打ちをし、再製本したもの

公文書館のマイクロ撮影業務

○記録を残す

劣化していく貴重な資料の情報を後世に伝える方法として、公文書館ではマイクロ撮影を行っています。マイクロ撮影とは、資料に記された情報などをマイクロフィルムと呼ばれる特殊なフィルムに撮影することです。マイクロフィルムには16ミリ幅と35ミリ幅の二種類があり、資料のサイズなどに合わせて使い分けます。主な特徴を挙げると

- 一、資料の内容、文字の形や細かい部分等を鮮明に写し込める
- 二、大量の情報を収めることができ、保管場所が少なくて済む
- 三、引伸機で、原寸大の複製資料を作ることができる
- 四、フィルムから判読できる(専用のリーダー機にかけて利用)
- 五、適切な保存をすれば五〇〇年の寿命と言われている

以上の点から保存業務の手段として琉政文書、土地所有申請書を中心に、戦前文書、琉球王朝時代の古文書、家譜などもマイクロフィルムに収める作業を行っています。

沖縄県公文書館では、通常二本のフィルムを作成しています。一本は撮影したオリジナルフィルムで、保存用として専用のフィルム・テープ保管庫にて永久保存されます。もう一本は保存用フィルムをコピーして利用に供する

フィルムです。

このように、他の媒体に替えることで原資料を保存し記録を残し続けることができます。

○写真撮影業務

原資料の内容(文字情報)を収めるのはマイクロフィルムが優れています。モノクロ画像(白黒画像)なので資料特有の色などはわかりません。そこで、そのような資料の状態を知るためや古い写真資料などは写真撮影を行います。使用するフィルムは一般に使う35ミリフィルムよりも鮮明に写せるブローニー版です。撮影されたフィルムは整理して、マイクロフィルム同様専用の保管庫にて保存されます。

以上が当館の資料保存業務の概要です。こうした作業をする上で私たちが心がけているのは、資料保存の三原則といわれる①原形保存、②記録化、③可逆性の三点です。すなわち、資料を元の状態で、可能な限り忠実に保存し、どうしても手を加えなければならぬ時には処置の記録をとり、いつても元に戻せる素材や方法を選んで行うということ。資料は「記録史料」としてこの先も何百年と私たちの歴史を語り継いでいくこととしよう。そのためにも、将来を見据えた保存業務にじっくり取り組んでいきたいと考えています。

沖縄県公文書館

収集資料
リスト

('96. 4月~10月)

沖縄県公文書館では、'96年4月から10月までの期間に以下の資料を収集しました。そのなかには多くの寄贈資料も含まれています。資料を提供してくださった個人、並びに関係機関に厚くお礼を申し上げます。

資料	収集元	点数
移管・引継文書 土地調査事務局からの引継資料 土地所有申請書(八ヶ字分) 求積簿(三ヶ小字分) 公文書「土地調査書類」等 刊行物「沖縄の地籍調査」 知事部局移管文書 移管文書 保存期間延長の一種文書 海洋博関係文書 保存期間満了の各課保管文書 行政刊行物 沖縄県行政資料(引継資料) 陸軍兵籍簿 工事台帳(一九六五~七二) 戦前の沖縄県職員録(コピー)等 USCAR・英文資料 寄贈 ジョージ・H・カー関係資料 USCAR刊行物「守礼の光」 USCAR写真資料等 USCAR行政記録等 日本占領関係資料マイクロフィッシュ(複製) USCAR・USARYIS機構図(複製)	土地調査事務局 文書学事課 国、県市町村 行政情報センター 生活福祉部視課課 土木建築部土木事務課 総務部職員厚生課 クリス・ピアス氏 沖縄県議会図書室 レイモンド阿嘉氏 宮城悦二郎館長 与那原町教育委員会 エドワード・フライマズ氏 アレキサンダー・ライマズ氏	全、約一〇四冊 約九六冊 三冊 三冊 二冊 全、四一八四冊 二、八二九箱 八六一箱 九九箱 三九五箱 二六八冊 一、二七四冊 二一四冊 七冊 九点 一、〇三五点 一〇二点 二四件 四冊 三三枚 一〇点

購入	借入資料を複製	備考
太平洋戦争における米国防務省宣伝ビラ(複製) 基地建設関連写真(複製) 米海兵隊写真(沖縄関係分、複製) 琉球列島米国民政府写真「土地」(複製) 地域資料 寄贈・引継 海洋博文書 労働者沖縄婦人少年室引継資料 沖縄記録写真集 「衛生統計」「沖縄医学界雑誌」等 マッカーサー宛請願書等 大正期「尋常小国語読本」 卒業証書、辞令、賞状等 八重山毎日新聞等 九州の新聞 雑誌、賞状表彰状等 因吉有慶歌集「千瀬の夏」等 陶集等 喜屋武眞栄(元参議院議員)蔵書 屋良朝苗(元県知事)収集資料 大田政作(元琉球政府行政首座)収集資料 久場政彦(元琉球大学教授)蔵書	琉米歴史研究会 那覇市文化局歴史資料室蔵 エドワード・フライマズ氏蔵 " " " " 米国防文館、米国議会図書館 メリーランド大学図書館蔵 フォート・ブラッグ内公文書館 米国立公文書館 " " " " 海洋博覧会記念公園管理財団 労働者沖縄婦人少年室 那覇出版社 照屋善助氏 レイモンド阿嘉氏 雨宮和子氏 宮城信勇氏 日本新聞協会 東京大学法学部付属 近代日本法政資料センター 明治新聞雑誌文庫 因吉昇氏 因吉清治氏 デイビッド阿嘉氏 喜屋武眞栄氏 屋良朝苗氏 大田政作氏 久場政彦氏	一、九項目 四五八点 六件 四冊 二五件 二五冊 一、三二一件 三〇枚 一四一枚 九六枚 二、八六八冊 三三七点 一、一三冊 三四点 八〇点 一冊 三四点 一、二九冊 一六九箱 一三五点 三点 三三三三箱 六三三冊 一三三点 一、三九〇冊

ガリオア留学生関係資料 大山朝常（元コザ市長）収集資料 富名義珍空手関係資料 名嘉正八郎収集資料 仲松康幸収集資料 宮良長安収集資料 新聞、雑誌等（明治期） 照屋榮一収集資料 北米沖縄県人会資料 身分証明書等 「読んでくれますが、私の戦後史」等 「蘇る首里城」等 「沖縄県の交通安全之塔碑を求めて」 「沖縄市老人クラブ連合記念誌」 「字誌なくし」 「琉球と沖縄の表記について」等 「唐栄、久米村、金氏年代記」 沖縄関連史跡に関する文献等 「融合 首里の旅うた」等 「琉球王代文献集第三集」等 「清代中琉関係档案選編」等 「那覇市立商業高等学校第三六期生名簿」等 「沖縄県政五十年」等 「比屋定字誌」 米国籍学生名簿 喜村朝貞収集資料 法政大学沖縄文化研究所紀要 故比嘉太郎移民関係資料 映像資料（ビデオ等） 寄贈	岡一勇三氏 大山朝常氏 柏谷眞敬氏 名嘉正八郎氏 仲松江英氏 宮良朝安氏 北根 敬氏 照屋榮一氏 宮城次夫氏 山城謙氏 三浦勝美氏 首里城復興元期成会 崎清秀治氏 川上正友氏 常間幸吉氏 小玉正任氏 具志堅以徳氏 崎原恒新氏 河野 忍氏 伊地鉄雄・初子氏 神谷栄助氏 石橋英一氏 沖縄協会 豊見本達助氏 比嘉幹郎氏 喜村朝貞氏 法政大学沖縄文化研究所 アルウィン・比嘉氏	八巻 二六二冊 一一冊 一、一七〇冊 一、〇八〇冊 一三九点 二、三三二五冊 八六二冊 三六六冊 四九点 一四二冊 五冊 三冊 七冊 三冊 五冊 八〇冊 二一一点 四冊 六冊 三〇冊 三冊 三冊 二八三冊 一一冊 四五六冊	柏谷眞敬氏 文化振興課 県福同事務所 県総合保健協会 沖縄総合事務局農政課	三巻 二巻 一三巻 一六巻 五三巻
---	--	--	---	-------------------------------

県公報テレビ番組「ふるさとNOW」等 「ハンセン患者と五十年」 映画「沖縄」（南方同胞援護会製作） 沖縄戦記録映画等 「人間の住んでいる島」 「ウリミバエ根絶の記録」 「海と空に開かれた創造する町づくりをめざして」 「南風はあたたか」 「仏桑花—AKABANA—」 「今月のお客様—宮城悦二郎—」 「史料管理の達人」一—三巻 沖縄海洋博関係映像資料 故比嘉太郎関係映像資料 音声テープ、レコード 寄贈 「PWの歌」等（カセットテープ） 「小洪節」等（レコード） 「私の合衆国訪問」（レコード） 「沖縄の苦悩」（オーブントラック等） 「沖縄音楽総覧 楽劇篇」（レコード） 故比嘉太郎関係音声資料（オーブントラック等） 借用資料を複製 「ハワイインタビュ」（カセットテープ） その他 浜田庄司作茶碗 琉球郵便はがき等 B型車票 B型車票 夜光貝、センネンガイ等貝殻類	県公報課 愛川直人、佐々木伸之氏 財団法人沖縄協会 宮屋武眞榮氏 シネマ沖縄 ウリミバエ事業所 伊良部町役場 下地町 比嘉美代子氏 沖縄ケーブルネットワーク 紀伊国屋書店 海洋博覧会記念公園管理財団 アルウィン・比嘉氏 三浦勝美氏 宮良長安氏 岡一勇三氏 喜屋武眞榮氏 宮里幸子氏 アルウィン・比嘉氏 稲嶺盛保氏蔵 稲嶺盛保氏 香村昂男氏 比嘉嘉幸氏 前長良明氏	三〇七巻 一巻 四巻 二巻 一巻 一巻 一巻 一巻 一巻 三巻 四六七点 八二点 一巻 二七枚 一枚 二〇点 三六枚 一三八点 一五本 二点 六点 二点 六点 一点
---	--	---

○その他、地域資料として「沖縄精神衛生協会創立十周年記念誌」（藤井正美氏）、「麻姓門中の歴史」（仲嶺康輝氏）、「前島町のアルバム」（真喜志康二氏）、「じき友を偲び五十年」（神里常雄氏）、「宇楚辺誌戦争篇」（宇楚辺誌編纂委員会）、「沖縄戦米兵は何を見たか」（吉田健正氏）、「十八年期の投稿集」（兼次佐一氏）、「うらそえ文芸」（星羅彦氏）、「坂本万七遺篇」（山田写真真館）等の寄贈がありました。厚くお礼申し上げます。

収集資料紹介

USCAR資料紹介

行政資料を利用する際、その資料を作成あるいは受理した組織のなりたちと仕組み、他の組織との関係等を理解することは非常に大切です。今回は、USCAR資料群の中から、組織の理解に役立つ資料をご紹介します。

①USSCAR・USARYIS機構図

USSCARや米軍では、大判の機構図を作成していました。オリジナルのサイズはおおよそ50cm×90cm。各部署の関係図に加え、当時のスタッフ名や内線番号まで記されています。当館では、一九九六年十二月現在で、次の各機構図を所蔵しています。

★USSCAR(琉球列島米国民政府)

- 。一九五二年五月。一九六六年七月
- 。一九六七年四月。一九六八年三月
- 。一九六九年一月。一九六九年九月
- 。一九七一年七月

★USARYIS(琉球列島米国防軍)

- 。一九六五年七月。一九七〇年七月
- これらは、元USSCAR職員のエドワード・フライマス氏、アレキサンダー・リオズノフ氏から寄贈されたものです。当館では、各機構図を一旦マイクログラフフィルム化し、利用しやすいようにオリジナルの約一・五倍に拡大して紙焼きしました。閲覧室でご覧いただけます。



②USSCAR行政記録

原題は「CIVIL AFFAIRS ACTIVITIES IN THE RYUKYU ISLANDS」

「CIVIL ADMINISTRATION OF THE RYUKYU ISLANDS」

「THE RYUKYU ISLANDS」一九五二年から六〇年まで年二回発行、六一年から七二年まで年一回発行されました。統計資料や写真をふんだんに取り入れた報告書で、琉球の政治や経済、産業等各分野ごとの各年の概要が簡潔な英文でまとめられています。平均頁数は約三三〇頁。久場政彦氏や照屋榮一氏、宮城悦二郎当館館長からの寄贈で各年の巻を揃えつつあります。

米国はUSSCAR成立以前には軍政報告書を作成しており、その要約版の複製物は閲覧室でご覧いただけます。

地域資料収集の現況

沖縄県公文書館はこれまで、多くの方々から沖縄に関する資料の寄贈を受けています。遠くは米国ロスアンゼルスやハワイ、また他府県在住の沖縄関係者からの寄贈もありました。平成八年四月から十月までの間に寄贈された地域資料は四一五ページの表のとおりです。ここでは平成八年十月二十一日に寄贈された元参議院議員、喜屋武眞榮氏の蔵書、書簡等について紹介します。

同氏の蔵書等は大別して①琉球政府文教局勤務の頃の資料、②沖縄県祖国復帰協議会(復帰協)会長の頃の資料、③参議院議員の頃の資料に分けられます。文教局の頃の資料は、教育関係刊行図書やガリ版刷りの資料が多く、また、長年にわたり教師として活躍した故ミツ夫人の資料も含まれています。復帰協会長の頃の資料は、喜屋武氏が収集した新聞記事等のファイル、沖縄関係刊行物、大型封筒に入った復帰協関係資料等です。その中の特筆すべき資料として、昭和四〇年八月十九日米沖の佐藤首相に対し、翌二〇日、琉球東急ホテルでおこなわれた沖縄教職員会会長の屋良朝苗、復帰協会会長喜屋武眞榮、両氏の連名による請願の録音テープと、東京文化放送作成の録音テープ「喜屋武眞榮の証言」のオープンリールテープ(写真)が挙げられます。参議院議員の頃



収集した国会関係資料は各省庁、あるいは内容別に分類、整理された後、段ボール三五箱に梱包され東京から送られてきたものです。

その他、復帰運動や参議院議員活動中、県内外の多くの方々から寄せられた激励文等も多く含まれています。

図書資料等約五、〇〇〇冊、ビデオテープ三巻、オープンリールテープ一六巻、カセットテープ二巻、レコード二枚からなる喜屋武眞榮氏関係資料は害虫、カビ対策の燻蒸処理を終えた段階であり、整理後の活用が期待されています。

公文書館ついでんなんとJINCO②

英文資料収集・整理担当 / 漢文資料、行政刊行物収集・整理担当 篇

英文資料収集・整理担当 (資料第一課)

琉球列島米国民政府 (United States Civil Administration of the Ryukyu Islands) の、その頭文字をとって「ユースカー (USCAR)」と呼ばれていました。沖縄戦が終わり、米軍は焦土と化した沖縄の秩序維持を図るため、軍政府という形態で統治を開始しました。これが後に、琉球列島米国民政府へと移行します。その後、ユースカーは高等弁務官制の導入などにより機構を変えながら存続し、一九七二年の沖縄の日本本土復帰をもってその二年間(軍政府の期間を含めて二七年間)の業務を終了、消滅しました。

沖縄県公文書館では、沖縄が米国によって統治されていたこの時代の文書の収集・整理を行っています。ユースカー文書は米国民政府の閉庁前から徐々に米本国へと移送され、現在米国メリーランド州にある国立公文書館新館に保管されています。行政上発生した大量の文書はもちろん、写真や映像フィルムも残されており、当時を知る上で非常に貴重な資料群です。

当館では平成九年度から国立国会図書館の協力を得て、米国立公文書館所蔵のユースカー資料をマイクロフィルムに撮影し、収集する計画を立てていま



す。占領期の記録であるユースカー文書の、米国で公開されているすべてが沖縄県内で簡単にご覧いただけるよう、年次計画を立てて収集する予定です。

現在のところは、軍政府やユースカーにゆかりのあった方々に提供していただいた資料が当館の英文資料群の中心です。資料には文書、地図、写真(航空写真含む)、映像フィルム、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等があります。寄贈などの形で資料が収集されると、英文資料担当のスタッフがコンピュータを使って目録を作成します。資料名、作成局課名、作成年度、資料の状態などを一件一件記録し、閲覧と保管の基本情報をとるためです(四ページの収集資料リスト参照)。これらの資料を、多くの皆さんが気軽に利用し、いただくことを願っています。

漢文資料、行政刊行物収集・整理担当(資料第一課)

○漢文資料

当館が所蔵している漢文資料には、琉球王国時代中国との間に交わされた公文書があります。中国で檔案(とうあん)と呼ばれるこれらの文書は、漢文や満州文字で書かれ平成七年の開館の際に中国第一歴史檔案館より原資料と同じように複製された一九六六のレプリカが寄贈されました。檔案のレプリカは一点ごとに当館作成の中性紙の保存箱に収め、特別保存庫に保管しています(写真)。その他にも中国第一歴史檔案館中華書局出版の「清代中琉關係檔案選編・統編」の二冊と「清代琉球檔案史料(一)(六)」を合わせると檔案史料は一、七三七件あり閲覧室にてご覧になれます。

一四世紀から明治期の廃藩置県に至るまで琉球と中国の間には膨大な量の文書が交わされました。当館所蔵の檔案史料はその一部ですが、琉球王国と中国との交流の一端を窺い知ることが出来るでしょう。今後も中国第一歴史檔案館との交流をはかりながら、継続して収集に努力し漢文資料を充実させていきたいと考えています。

○行政刊行物資料

県、市町村で発行された行政刊行物(ポスター、チラシ、公報等も含む)の他、新聞・逐次刊行物などを収集、整理し、閲覧に供しています。沖縄県



が作成した行政刊行物は規程及び規則により公文書館に移管されることになっていますが、当館でも各市町村に呼びかけ積極的に収集活動を行っています。

また、国が発行する沖縄関係刊行物資料や他府県の公文書館に関する資料等も広く収集の対象にしています。閲覧用・保存用・職員用と可能な限り三部取り寄せ、これまで一万三千冊の行政刊行物を収集しました。参考資料室に配架されている行政資料は自由にご利用いただけます。

参考資料室の新聞棚には県内紙、本土紙を含めて一六の新聞を配架しています。戦前の琉球新報や沖縄毎日新聞、戦後の沖縄タイムス、宮古島関係新聞、八重山関係新聞等はマイクロフィルムで収集し、当館ではネガとポジフィルムを作製し閲覧に供しております。

私たちが収集する資料は広範囲にわたりますが、受け入れ後、即座に利用しただけできるよう努力しています。

一周年記念事業を終えて

八月一日から七日まで、沖縄県公文書館では開館一周年記念事業を開催しました。記念式典をはじめ、「琉球政府の時代」というテーマのもと特別展、特別講演・講座、映像祭、館内案内ツアー、保存箱教室などのイベントを開いた期間中、二、九九二人の方が公文書館を訪れました。

特別講演では久場政彦氏が「琉球政府時代の或る背景」というテーマで、特別講座では儀間文彰氏、兼次佐一氏、中村文字氏がそれぞれの経験をもとに、沖縄の戦後史を語ってくださいました。講堂にておこなった映像祭「宮森小ジエツト機墜落事故」映像、ガリオア留學生記録フィルム「明日を導く人々」の上映では、映像と平行し、ジエツト機事故の関係者や元留學生を招いてのディスカッションを開きました。



保存箱教室



特別展「琉球政府の時代」

書庫や製本補修室など、普段見ることのできない公文書館の一面を一般に公開する「館内案内ツアー」、「保存箱教室」には、夏休みとあって家族連れも多く見られました。参加者からは「楽しかった」、「公文書館内を初めて見学でき、大変勉強になった」などの声がかれました。

また、展示室、エントランスホールでは特別展「琉球政府の時代」を開催。「土地問題」、「ジエツト機墜落事故」など、沖縄戦後史の大きなトピックごとに琉球政府文書、その他の資料を展示。また琉球政府行政ビルに掲げられていた銅板、米国民政府発行の壁新聞なども展示し、アメリカ統治時代の歴史に関心のある人々にぎわいました。特別講演・講座はビデオ化してあります。閲覧希望の方は閲覧室のビデオブース、またはミニシアターにて視聴できます。

平成八年度公文書館講座

昨年十二月に開講した、平成八年度の公文書館講座。毎回一〇〇名近い受講者が参加し、にぎわいをみせました。「沖縄の歴史と先史から近代へ」をメインテーマに行われた全十回の講座。各回のトピックと講師名は以下のとおりでした。

- 第一回 十二月五日(木) 安里嗣淳
「沖縄の先史時代」
- 第二回 十二月十二日(木) 仲地哲夫
「近世琉球の歴史と民衆」
- 第三回 十二月十九日(木) 仲地哲夫
「幕末の琉球をめぐる国際環境」
- 第四回 一月十六日(木) 田名真之
「大交易の時代」
- 第五回 一月二十三日(木) 豊見山和行
「琉球の冠船貿易について」
- 第六回 一月三十日(木) 上里賢一
「近世琉球の漢学」
- 第七回 二月六日(木) 照屋善彦
「十九世紀前半における琉球の西洋文化との遭遇」
- 第八回 二月十三日(木) 田里修
「謝花昇の土地整理事業」
- 第九回 二月二十日(木) 比屋根照夫
「太田朝敷論」
- 第十回 二月二十七日(木) 比屋根照夫
「伊波普猷と月城」

公文書館特別講座のお知らせ

沖縄県公文書館では以下の特別講座を企画しています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

テーマ：「文書管理と情報公開」
講師：廣田傳一郎氏

(シオン短期大学教授)
日時：平成九年三月二十五日(火)
午後二時～四時

場所：沖縄県公文書館講堂

参加：自由

お問い合わせ

講座企画の担当まで
(電話 八八八―三八七五)



沖縄県公文書館

〒901 沖縄県南風原町字新川一四八―三
電話(〇九八)八八八―三八七五
FAX(〇九八)八八八―三八七九